

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500772		
法人名	有限会社 タケタニ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	〒856-0817 長崎県大村市古賀島町120-15 (電話) 0957-53-2081		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月7日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(H20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	20 人	常勤	7人, 非常勤	13人, 常勤換算 7.52人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 ~ 31,000 円	その他の経費(月額)	9,900円・実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大村市民病院 ・ たしる医院 ・ 牧山医院 ・ 坂口歯科医院
---------	--------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くには長崎空港があり、温泉や商業施設、消防学校や警察署、郵便局が立ち並び、ホームの周りには畑が広がり、のどかな住宅地にピンク色の建物が際立っている。2階の談話室からは空港や大村湾の景色の眺望が良く、心の癒しを与えてくれる。今年度は、既存の建物を改装し、多目的ホールを設け、ホーム行事や地域の催事に活用したり、時には洗濯物干し場となったり、雨天時の入居者のレクリエーションの場として活用している。また、ホーム独自の「まごころ」の替え歌があり、機会があるごとに入居者や家族、地域の方も一緒に合唱し、心を一つにしている。何よりも職員の温かな笑顔が素敵で、細やかな心配りが随所に表れ、「職員同士の声かけ、連携が力をさらに倍にしている」という管理者の言葉が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題として挙げられた「思いや意向の把握」「災害対策」「栄養摂取や水分確保」については、即改善計画シートを活用して検討され、改善に向けて取り組んでいる。ケアのキーポイント書式を作成し、思いや意向の把握につなげている。災害対策については、災害発生を常に念頭に置き職員の意識改革を図っている。栄養摂取については管理栄養士による専門的アドバイスを受けるよう改善している。半年後には、改善計画に対する評価も行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は毎回全職員に配布し記入してもらい、管理者がまとめたものを再度全職員で確認し合っている。各職員の過去の自己評価を振り返ると、空白の項目が徐々に少なくなっていたり、記入された内容の変化に成長の現れを感じ、職員の評価に対する理解が深まり身についてきていることを管理者は実感している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議報告書から家族や地域の方の参加が多いことがわかる。町内会やホーム行事に合わせて開催したり、日々の活動状況をスライドを用いて行うスライドショーを実施するなど、工夫が多彩である。地域の方や行政、家族から様々な意見、要望をもらい、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議に多くの家族が参加されるので、その際に家族の意見を聴き、ホームの活動に活かしたり、改善や向上につなげている。会議に参加できなかった家族へは、後日それぞれ電話で会議での内容を伝え、意見を聴き確認するようにしている。また、入居者の家族を広い視野で地域と捉えられており、入居者と同様にその家族とも家族ぐるみのお付き合いをされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの神社へ毎日散歩に出かけており、地域の方々とは笑顔で挨拶を交わす顔馴染みの関係である。町内恒例の盆踊りに入居者とその家族と共に参加し、交流を深めている。代表者は町内会に加入しており、町内の方々の葬儀など参列したり、していただいたりとの関係があり、人情深い地域性を実感している。また、昨年7月より地域の方による紹介で共用型通所介護をスタートさせている。地域の高齢者のニーズに応えるためにも啓発していきたいと意欲を示されている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念『1. 家庭的な楽しい生活 2. 安心と尊厳のある暮らし 3. 皆が家族の一員であること 4. 地域の皆様と共に』は、素晴らしく立派な言葉よりもやさしくわかりやすい言葉を使うことで誰にでも親しみやすく、さらに地域密着型サービスとしての役割を目指し、ホーム独自で考え作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	迷ったり、様々な困難にぶつかった時、「自分が自分を見直す」ために介護スタッフ基本理念を別に定めている。ホーム理念を日々唱和すると共に、スタッフ理念により自己を振り返りながら、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの神社へ毎日散歩に出かけており、地域の方々とは笑顔で挨拶を交わす顔馴染みの関係である。町内恒例の盆踊りに入居者とその家族と共に参加し、交流を深めている。代表者は町内会に加入しており、町内の方々の葬儀など参列したり、していただいたりの関係があり、人情深い地域性を実感している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は毎回全職員に配布し記入してもらい、管理者がまとめたものを再度全職員で確認し合っている。各職員の過去の自己評価と比べてみると、空白の項目が徐々に減っていたり、記入された内容の変化に成長の現れを感じ、職員の評価に対する理解が深まり身についてきていることを管理者は実感している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議報告書から家族や地域の方の参加が多いことがわかる。町内会やホーム行事に合わせて開催したり、日々の活動状況をスライドを用いて行うスライドショーを実施するなど、工夫が多彩である。地域の方や行政、家族から様々な意見、要望をもらい、サービス向上に活かしている。		

グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問を毎月受け入れ、トラブルの未然防止や介護の質の向上に活かしている。また、共用型通所介護事業の開始に向けて、ホームの考えや運営方針を折にふれて伝え、市との協働や連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを直接ホームの窓口でされる家族がほとんどで、その際に個別に報告したい事など話し合っている。遠方に住む家族へは、電話や手紙で報告している。また「まごころ便り」を毎月発行し、写真を織り交ぜ行事等ホームでの暮らしぶりを掲載している。金銭管理についても、領収証元帳の確認を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に多くの家族が参加されるので、その際に家族の意見を聴き、ホームの活動に活かしたり、改善や向上につなげている。会議に参加できなかった家族へは、後日それぞれ電話で会議での内容を伝え、意見を聴き確認するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。やむを得ず離職する場合もあるが、馴染みの職員によるケアの継続はできている。採用の際は、入居者と一緒に食事をするなどホームでの時間を共有してもらい、介護の仕事について十分に話し合った上で判断している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や外部研修の受講機会を全職員に確保できるよう配慮している。資格取得についても推進し、テキストをホームで購入し、勤務体制を考慮するなど、ホーム全体で支援しており、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や他事業所の職員同士が協力して行う勉強会「各駅停車」などに参加し、同業者との交流を深めている。また、市内のグループホーム間で交換研修を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域の方からの相談で利用につながるケースもあり、まずはホームを見てもらうこと、本人の話を聴くこと、家族や関係者からの情報を集めることを大切に、馴染みながらのサービス利用を心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はそれぞれに「寂しい思いをしないように、その人らしく暮らして欲しい。」「家族みたいになれればいいな。」という想いで入居者と一緒に過ごしている。入居者からも「よう頑張ってくれとよ」と労いの言葉をかけられる場面が見られた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望、意向について、日々のかかわりの中にある入居者の何気ない言葉や表情からも見逃さないように心がけ、把握に努めている。個々に『ケアのキーポイント』を作成しており、職員それぞれの意見を出し合い検討する中で、自分とは違う見方や考え方があることに気づくこともある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを全職員で行い、家族や関係者の意見も聴きながら、本人の想いや意向にそよう介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々様子や気付きと共に介護計画の遂行状況が確認できるホーム独自の『介護・看護日誌』を作成し、注目すべき事項には赤でラインを引き特記として書き出している。設定した期間にとらわれず、状況変化や本人、家族の要望に応じて全職員で話し合い、計画を見直している。初期プランについては、入居前の情報とのずれが生じる場合もあり、1～2ヶ月で見直し、現状に即した計画を作成している。</p>		

グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎、外出の支援など、本人、家族の要望を基に柔軟に対応している。また、地域の高齢者が状況に応じて通所サービスを利用できるよう、グループホームの多機能性を強化し、平成20年7月より地域の方の紹介でサービスを開始している。		共用型通所介護について、機会があるごとに地域の方へ説明をしているが、まだまだ定着していない。一人ひとりと向き合い、自由に時間が設定できる共用型通所介護の利点を活かし、地域の高齢者を支援していきたいと意欲が高く、今後さらなる取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する協力医療機関による往診を受けている。また、状況に応じて専門医の継続受療支援も行っている。通院、受診についても本人、家族の希望に応じ、初診の場合は可能な限り家族に同席してもらうようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向にそって、かかりつけ医と話し合いながら方針を決め、全員で共有し、最期を迎えられるよう取り組んでいる。かかりつけ医と24時間連絡体制を取り、家族と共に最期を迎えることができるよう宿泊準備も整えている。また、ホームとしてできることとできないことの見極めをし、医療機関と協働して支援を行うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守り、プライバシーの確保を徹底している。引き継ぎ等の際、入居者名ではなく居室につけた果物の名で引継ぎを行うなど配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせ、個々にやりたいこと、どう過ごしたいかを把握し支援している。		

グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて盛り付けや配膳など手伝ってもらっている。配膳時の個人名札やトレーを色分けするなどの工夫が見られた。入居者と職員と一緒に食卓を囲み、必要に応じさりげなく介助しながら、会話のある食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望や体調に合わせ、いつでも入浴できるような体制を整えている。状況によって部分浴や清拭の支援も行っている。時には近隣の温泉施設を利用したり、ドライブがてら皆で足浴を楽しんだり、変化に富んだ入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外部から講師を招き、毎週詩吟教室を催している。その他、職員の得意分野でそれぞれにプログラムを用意し、生け花やカラオケ、踊りなどの楽しみごとがある。またホーム隣接の倉庫を改装し、昭和時代の調度品などを配置した多目的ホールを整備され、雨天時のレクリエーションの場として活用している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社へ毎日散歩に出かけている。その他、買い物やドライブ、近隣の温泉施設の利用など外出の機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠することなく、見守り寄り添うケアで自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地元消防団や近隣住民との合同消火・避難訓練を実施している。その他の災害発生についても常に念頭に置くよう職員の意識改革を行い、避難場所の確保、食料や飲料水など物品等の準備と管理を行い、災害に備えた対策を講じている。		

グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や希望を献立に採りいれながら、1日30食品を目標に栄養のバランスにも配慮している。食事摂取量や飲水量をチェックし、暮らし全体を通じた食の支援ができるようアイデアを出し合っている。栄養摂取については、協力施設機関の管理栄養士に、定期的にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空港の近くに立地しているが二重サッシで遮音され外の騒音は気にならない。天井には梁があり、昔ながらの懐かしい雰囲気がある。管理者宅にあったピアノや置物、職員のアイデアで壁に装飾された季節の花々によって、家庭的で季節感のある空間となっている。少し足元の寒さを感じたが、足カバーやレッグウォーマーで冷え対策を講じている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフロアと畳の和洋折衷型で、入居者の状況に合わせてベッドとマットを使い分けたり、家族の来訪時に寛げるように配慮されている。仏壇を置かれている居室が多く、生花やお水なども供えられており、本人の大切なものに囲まれた居室になっている。温度や湿度への細やかな配慮もあり、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		